1

1201

特急

中央公論十月号
本欄十面
本文8ポ
二段廿二行
奇數頁から

# プロレタリヤ文芸批評界の展望

七行分

蔵原惟人

題と名とは段ヌキ

## 一、

9ポゴ
1行分

プロレタリヤ文芸理論は、わが国に於いても亦、他のすべての国のすべてのプロレタリアートの理論と同様に、一、与へられたる段階に於けるプロレタリアートの実践的課題と密接な聯繫の下に、二、反プロレタリヤ的及び似而非プロレタリヤ的理論との闘争の中に、強化され、発展して行った。

その昔わが国に初めて多少とも意識的なプロレタリヤ芸術運動が勃興した一九二一―二三年の頃、わが国の文壇と社会とを支配してゐたのは、菊池、芥川、久米、里見等によって代表されてゐた純粋のブルジョア芸術とその「芸術の永遠性の理論であった。その代表的なものは菊池寛の書いた「芸術本体にプロ、ブル階級なし

中央公論

10 20 伊勢吉製